

ろくおん通信

発行日： 1993年 5月15日

No. 53号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作係

「音声訳」を考える (第4回)

正しく読むということ

録音製作係 清水賢造

音声訳者は、音声表現技術の向上は無論のこと、録音技術の向上も、また、より正確に読む為の技術も修得していかなくてはなりません。音声表現がどんなに上手でも、また、どんなに綺麗に録音してあっても、誤読が多くては、資料としての価値がないばかりか、その図書を利用した利用者に誤りを広めることになる点では、「有害図書」ともなります。訂正の作業はたしかに苦勞しますが、「これくらいは」と訂正を怠ると、未来永劫、間違いを広め続けることになることを自覚しましょう。仮に聞き手が「おや?」と思っても手軽に辞書を引いて確認できません。また、一旦発表された録音図書は、コンピュータなどを利用したネットワークの発展で、全国的にもどんどん利用が進んできています。

「正しく読む」には、自分の知識だけでは限界があります。その点で校正の役割は重要です。盲人情報文化センターでは、蔵書になる図書は4回校正を行っています。同じ本でも校正者が変わると、また違った箇所がいろいろ指摘されるものです。2校正目を依頼する場合は、できるだけその分野に少しでも詳しい人をと考えていますが、残念ながらまだ充分できていない状況で、今後の課題でもあります。(4回の校正を実施している館は全国でも私達の施設だけだろうと思われませんが)

今回は、どういったものを校正表に上げるか、その「校正基準」と、「校正基準に含まれない事項」、また音声訳者が「訂正するか、しないかの判断基準」などを整理してみたいと思います。

【校正の基準】

- ・録音の順序(録音図書製作基準)は守られているか
- ・録音状態はよいか(音声はクリアーか、雑音の種類など)
- ・誤読はないか(固有名詞、てにをは、アクセント、ポーズの間違い)
- ・適切な構成処理がされているか
- ・適切な処理(補足など)がなされているか

などが上げられます。

「てにをは」や固有名詞などの誤読の指摘はハッキリしていますが、アクセント、間、イントネーションなどの指摘は校正者によってかなりの幅が出てきます。一応、校正表には、アクセントや間などの間違で、「意味が変わってしまうような時」にはあげるようにしています。

【校正基準に含まれない事項】

- ・音声訳者の「読み方に関すること」(例えば、音訳表現技術や読み癖など)
- ・口の中の音

読み方や口の中の音などは、指摘されたからといってすぐに治るものではありません。校者はいくまでも誤読のチェックが中心です。気になるようなことは、直接職員に渡す「校正B表」に指摘するか、直接口頭で職員に伝えるようにして下さい。

【訂正に関しての基準】

校正表にあげられた事項の「訂正の有無」は以下の基準で行います。

- ・誤読は訂正する。
- ・アクセント、間、イントネーションなどは、意味が変わって伝わりそうなものは訂正する。
- ・辞書に複数の読み方があり、意味が同じであれば訂正はしないが、意味が異なるものは訂正する。
- ・漢字の読みは、たとえば角川小辞典の『漢字の読み方』で「意味訓」に載っているものであれば訂正しなくてよい。
- ・その他、館で判定したもの。

などが訂正に関しての一応の判断基準とします。校正表で上げられた事項で音声訳者の判断で訂正しなかった時は、その根拠を備考欄に記しておくことも忘れないようにしましょう。

また、区切りなどの間違いは、「てにをは」などの間違い以上に大きな問題です。それは、音だけで聞いている人には、区切り方によってはなかなか意味が伝わりにくいからです。音声訳者はどこで切るかも考えながら下読みをしましょう。特に複雑な文章になるほど良く考える必要があります。切り方などが指摘された場合、「読み方が指摘された」と受け取るのではなく、「てにをは」の誤り以上のミスと認識することが大切です。

つづく

正誤表から・・・その28

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
折紙	オリカミ	オリガミ	煌めく	ホノめく	キラめく
相好	ソウコウ	ソウゴウ	残虐	ザンコク	ザンギャク
骨片	コツヘン	コッペン	迷宮	メイグウ	メイキュウ
一蹴	イッケツ	イッシュウ	お通夜	おツウヤ	おツヤ

二通りの読み方があるって各々意味が異なるもの・・・その15

一人	ヒトリ イチヒト 第一人者	上品	ジョウビン ジョウボウ 極楽浄土/最上位
和物	ワモノ アモノ 和装品 野菜、魚介類、肴、味噌 料理	上掛	ウケカケ ウケカケ 下染め/洗後、他/染料で染め ルカケ 上二引/カケ着脱
上座	カミザ ウカザ 上席、ジョウザ 炬バタ主婦/座	上水	カミズ ジョウスイ カミズの水 飲料/他/供出/カケ管を通じた清水

Q: 家庭録音用にカセットデッキ一式を購入したいと思っていますが、予算や必要なものを教えてください。

A: カセットデッキはソニーの「TC-RX711」がお薦めできます。定価は39,800円ですが、日本橋などで3万円ちょっとで購入できるでしょう。また、マイクは指向性のものであれば、5,000円～7,000円程度のもので充分。余り高価なマイクはかえって音質には不向きです。他に、ステレオ録音なので、接続コードが必要です。価格は1,000円程度。接続コードを購入するときは、マイクのプラグに合わせて、ジャックの大きさや種類（ステレオかモノラルか）を確認して購入します。また、カセットデッキだけでは音声が確認できませんので、イヤホンか、アンプ内臓のスピーカーが必要です。アンプ内臓のスピーカーは1万円前後して価格が高くなりますので、千円～2千円程度のイヤホンで録音は可能です。カセットデッキの本体にイヤホンの音量を調整する機能がついています。イヤホンを使用する場合、デッキに差し込む為のアダプタ（ステレオタイプのプラグで受けはステレオのミニジャック。イヤホンのプラグがモノラルならモノラルのミニジャック）を購入します。価格はソニーのPC-28Sが450円

これだけを揃えると約4万円弱（アンプ内臓のスピーカーは含まず）になります。もちろん、手持ちのマイクなどを使えばもっと安くなります。

カセットデッキ	SONY TC-RX711	定価39,800円
マイク	SONY F-VX500	定価 5,800円
プラグアダプター	SONY PC-28S	定価 450円
接続コード	SONY PC-45M	定価 1,300円

編集ボランティア募集

盲人情報文化センターでは、録音図書を編集しています。
今年度は、編集ボランティアを若干名、下記の内容で募集します。週に1回の来館が可能な人で、テープの編集に興味のある方がおられましたら、録音製作係までご連絡ください。

- | | |
|------|---|
| 養成者 | 定員4人 (金曜日1名、土曜日3名) |
| 条件 | 1. 週1回(10:00~15:00)程度の来館が可能な方
2. 機械操作が嫌いでない方 |
| 養成期間 | 本人の来館可能な日に合わせて、マンツウマンで行います。
期間は2ヶ月程度(個人差あり) |

音訳グループリーダー連絡会

場所： 盲人情報文化センター6階
日時： 1993年5月28日(金)
13:30~15:30

- 内容： 1. グループリーダー中心に処理の研修。
()の処理の研究
2. グループ交流

*グループリーダーを中心にした勉強会です。お気軽にご参加ください。

リクエスト図書一覧

- 『日常英米語会話ハンドブック』/伊吹寿夫他著 <英語>
『ドイツ傷ついた風景』/足立邦夫著 <歴史>
『正義と嫉妬の経済学』/竹内靖雄著 <社会科学>
『世界の先住民族』/ジュリアン・バーガー著 <社会科学>
『重耳上』/宮城谷昌光著 <小説>
『重耳中』/宮城谷昌光著 <小説>
『重耳下上』/宮城谷昌光著 <小説>
『マゼランが来た』本多勝一著 <歴史>